

おえ案ですか

題字は古川名誉院長



ご挨拶

4月より産婦人科にて勤務している室之園です。

私は昭和52年に東京大学を卒業し、大学および関連病院で約9年間研修した後、12年間水戸近郊にある茨城県立中央病院、その後16年間東京飯田橋にある東京厚生年金病院(現東京新宿メディカルセンター)に勤務し定年を迎えました。

今後どうしようかと考えていた頃、大学より当院で勤務してはどうかとの話をいただきました。

丸山正統産婦人科部長には、子宮鏡手術の指導で何度か厚生年金病院に来て下さったことがあり、お人柄は存じ上げておりました。医局の若手の先生から正統先生が大変忙しく苦労されていることも聞いていました。第一線の病院でできる限り臨床を続けていきたいと思っていた私にとって、この上のないお話だと感謝し、お世話になることになりました。

実際に勤務してみると、当院特有のやり方にとまどうこともありますが、予想通り働きやすい良い病院であることがわかり、うれしく思っております。

医療を取りまく情勢は確かに厳しいですが、当院のように患者さんから信頼され、職員が勤務していることを誇りに思っているような病院は必ず発展すると思います。

わずか3か月ですが、病院の発展、地域医療の向上のため私も力を尽くしたいと心より思えるようになりました。着任の際、職員に宣言した「体力・気力の続く限り、新人のつもりで頑張ります。」ということばにうそはありません。

どうぞよろしくお願いいたします。

産婦人科部長 室之園 悦雄



節電への取り組み

当院では、院内の照明を一部消灯するなど、節電に努めております。

ご不便をおかけしますが、ご理解、ご協力をお願い致します。



丸山記念総合病院の理念・基本方針

理念

1. 安全な医療の提供
2. 誠意ある対応
3. 地域との関わり合い

基本方針

1. 接遇に心がけ、心の通う患者様本位の医療を進めます。
2. 院内のチーム連携により質の高い安全な医療を進めます。
3. 地域の救急医療の中心的役割を担います。
4. 地域との連携を積極的に進めます。
5. 患者様を尊重し情報の開示と十分な説明に努めます。
6. 地域に貢献できる医療人を目指します。
7. 医療の質を確保するため病院の経営健全化に努めます。

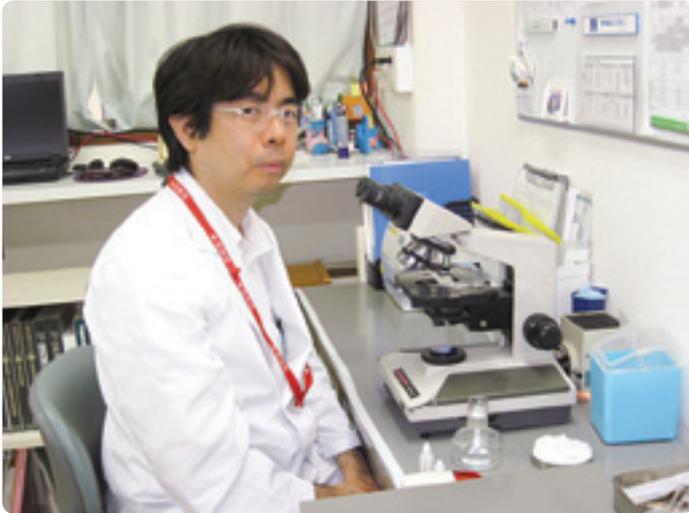
部署 紹介

皮膚科

皮膚科部長 新井 真悟

【はじめに】

私が丸山記念総合病院皮膚科に着任し、早いもので十余年の歳月が経ちました。顔なじみとなった患者様も大勢いらっしゃいます。日ごろは各科先生方には多くの患者様をご紹介いただき、また診断に苦慮する症例や皮膚科の範疇を超えた症状を有する患者様についてご教授を賜り、厚く御礼申し上げます。この機会に、皮膚科の診療内容と主な疾患に関してご一読いただき、ご理解いただければ幸甚に存じます。



皮膚科の診療内容は午前外来診療、午後病棟の往診、パッチテストや皮膚生検を予約にて行っています。外来初診の患者様の疾患群別では多い順に①湿疹、②ウイルス性疾患・急性伝染性疾患、③蕁麻疹・痒疹・皮膚掻痒症、④真菌症、⑤細菌性疾患…となっています。疾患群別でそれぞれ多い疾患をピックアップして後ほど解説させていただきます。以前、患者数は冬より夏に多い傾向にありましたが、最近では年間を通してほぼ横ばいとなっています。土日は平日に比べて混雑します。昨年（2013年）の年間総数は13,620人、月平均1,135人でした。一人体制のため、待ち時間の対策として、番号札制を導入しています。常連の

患者様は待合室で待機せず、他科受診をしたり、近隣の方は一時自宅に戻ったり、車椅子やご高齢の患者様はご家族の方が順番をとられて後で患者様ご本人をお連れするなどして、待ち時間を有効に利用しています。待ち時間が受付終了時刻の12時30分を過ぎることが予測される患者様でも、それまでにはお手数でも一度お戻りいただき、受付にお声かけ下さい。皮膚科は病院の休診日以外に金曜日が休診となります。また、不定期で休診があり、通常は約1ヶ月前には発表しておりますので、徐々に受診される患者様や長期処方されている患者様は皮膚科休診日をご確認の上、受診されることをお勧めします。



昨年よりデジタルカメラで撮影した臨床写真のオープンカルテへの取り込みが可能になりました。このことは、皮膚科にとって画期的なことです。皮膚科診療においてデジタルカメラは皮膚症状を克明に記録できる手段として有用です。臨床写真は治療方針を決定するにあたり、経時的変化が一目瞭然で、比較検討することができるため大いに役立ちます。外来において、臨床写真の撮影は患者様の同意を得た上で行っております。患者様と画像情報を共有することで、言葉による説明より説得力のあるものになっています。病棟では主として褥瘡の臨床写真を撮影しています。スタッフ間で画像情報を共有することが可能になり、症状の変化にいち早く気づき、皮膚科への連絡が今まで以上に迅速になったと実感しています。褥瘡委員会では臨床写真を呈示しながら個々の症例についてより深く掘り下げたディスカッションが行えるようになりました。



他科との関連疾患

皮膚科では他科とも連携して診療を行っております。他科から皮膚科へ依頼される疾患は外来では足及び爪白癬、湿疹、帯状疱疹が多く、病棟では褥瘡が大部分を占めています。一方、皮膚科から他科に依頼させていただくことの多い主な疾患は下記にまとめました。また、難治や重症の症例は近隣の大学病院に紹介させていただいております。

- 内科…糖尿病性壊疽、膠原病
- 眼科…帯状疱疹、アトピー性皮膚炎
- 口腔外科…扁平苔癬、外歯瘻
- 血管外科…下腿静脈瘤
- 耳鼻科…帯状疱疹
- 泌尿器科…性器ヘルペス、梅毒
- 形成外科…皮膚腫瘍、熱傷
- 整形外科…痛風、関節症性乾癬
- 麻酔科…帯状疱疹後神経痛

当院皮膚科で多くみられる疾患

1 湿 疹

●かぶれ（接触性皮膚炎）

化粧品によるもの、毛染めによるもの、金属によるものなどが挙げられます。原因と考えられる接触源に触れないこと、絶つことがまず必要なことです。治療には抗アレルギー剤（内服薬）とステロイド剤（外用薬）を用います。ネックレス、ピアス、指輪など特に金属に起因すると考えられるものでは、原因検索として金属パッチテストを実施しています。



●皮脂欠乏性湿疹

冬に特に多くみられます。冬は皮脂分泌が低下し湿度も低下して皮膚が乾燥しやすくなります。かゆみによって皮膚を強く引っ掻き、二次的に湿疹病変を形成することが多いです。特に高齢者の腰、臀部、下腿にみられ、貨幣状湿疹を伴って受診される方が多いです。入浴時のナイロンタオルの使用、垢すりも皮膚の乾燥をもたらすため、中止してもらいます。治療には保湿剤、ステロイドの外用剤のほか、かゆみが強いときには抗アレルギー剤を用います。

●アトピー性皮膚炎

かゆみを伴った慢性の皮膚炎で、皮膚の乾燥とバリアー機能異常を基盤に刺激やアレルギー反応が加わって発症します。アトピー性皮膚炎はアトピー素因（気管支喘息、アレルギー性鼻炎・結膜炎、アトピー性皮膚炎、またはIgE抗体を産生しやすい素因）を本人、または家族が有している場合には発症しやすいと考えられます。当院では初診時に血液検査（好酸球、IgEなど）を行います。治療は内服薬で抗アレルギー剤、症状に合わせたランクのステロイド剤、保湿剤などの各種外用剤を用います。残念ながら、現時点で病気そのものを治す薬物療法はありません。治療の目標は症状があっても軽く、日常生活に支障がなく、薬物療法もあまり必要としない状態、すなわち保湿剤のみでもコントロールが可能となる状態を目指しています。

2 ウイルス性疾患、急性伝染性疾患

●イボ（尋常性疣贅）

ヒト乳頭腫ウイルス（HPV）の感染によって生じます。ウイルスが関与しているため、自分で削ったり、いじったりすることでウイルスを増殖させ症状を悪化させてしまいます。当院での治療はおよそ2週間に1回の頻度で患部に液体窒素を綿球に含ませて圧抵する冷凍凝固療法を行っています。また、症状によっては漢方薬のヨクイニン（ハトムギのエキスを抽出し錠剤にしたもの）の服用を併用することがあります。

●ミズイボ（伝染性軟属腫）

ポックスウイルス科に属する伝染性軟属腫ウイルスの感染によって発症します。ミズイボはプール遊びやビート板

などを介して感染します。ミズイボは通常2～5mm程度の光沢を有する円形の盛り上がり（丘疹）で、個人差はありますが放置すると数が増えることがあります。当院でもミズイボで来院される患者様のほとんどが小学校低学年ぐらいまでです。以降免疫を獲得しミズイボにかかりにくくなります。大人ではほとんどみられません、HIV感染などで免疫が低下すると稀にみられることがあります。ミズイボはピンセットを用いて摘むと白い塊がでてきます。当院では「ミズイボとり」と呼ばれるこの一般的な治療法を行っています。ミズイボの治療に関しては専門家の間でも意見が分かれます。ミズイボが自然治癒を期待できることから、塗り薬や放置してよいという考えの先生もいらっしゃいます。しかし、実際には様子を見ているうちに数が増えて、結局、摘除を希望して受診される方を散見します。ミズイボを引っ掻きとびひ（伝染性膿痂疹）を惹起させてしまう例さえ稀にあります。このようなことから個人的には数が少ないうちに摘除したほうがよいと考えます。

● **単純性疱疹**

単純ヘルペスウイルスの感染で皮膚や粘膜に小水疱やびらん（ただれ）を生じる病気です。単純ヘルペスウイルスはHSV-1とHSV-2の2つのタイプに分類されます。初感染後に神経節内に潜伏し、HSV-1は顔面（特に口唇）、HSV-2は下半身（特に性器）に再発を繰り返します。このうち、当院では口唇ヘルペスが多くみられます。治療は、再発で軽症の場合には抗ウイルス剤の外用で、初感染や中等症以上では抗ウイルス剤の内服を考慮します。

● **帯状疱疹**

子どもの頃にかかった水ぼうそう（水痘）のウイルス（水痘-帯状疱疹ウイルス）によって発症する病気です。水ぼうそうにかかった後に後根神経節内に潜伏します。免疫が低下するとウイルスが再活性化し、所属神経領域に、神経痛が出現し赤い丘疹や水疱ができます。神経痛は発疹が軽快してからも残ってしまうことがあります（帯状疱疹後神経痛）。治療は抗ウイルス剤の内服を基本とし、神経痛に対してはその程度により薬剤を調整します。全身に水ぼうそうのように発疹がみられる場合（汎発性帯状疱疹）や激痛、発熱がみられる場合には入院し、抗ウイルス剤を点滴することがあります。眼周囲の帯状疱疹（三叉神経第1枝領域）では眼にも炎症を起こしやすく視力障害を起こすことがあります。頬部、下顎から肩にかけて（三叉神経第3枝領域から第3頸髄神経領域）の帯状疱疹では顔面神経麻痺、味覚障害、内耳障害を伴うラムゼイ-ハント症候群に注意しなければなりません。そのため、顔面の帯状疱疹では眼科、耳鼻科の診察を受けていただくことがあります。

3 蕁麻疹・痒疹・皮膚瘙癢症

● **じんましん（蕁麻疹）**



かゆみを伴う皮膚のもりあがり（膨疹）を生じる病気で突然出現し、数時間で出たり、引っ込んだりします。主に皮膚に症状が出現しますが、粘膜に現れることもあります。胃腸の粘膜に現れると腹痛や下痢、のどの粘膜に現れると咳が出たり、息苦しくなったりします。特定できるものとして一番多いのは食物で、青魚、魚介類が多く、たけのこなどあくが強いもの、卵、そば、豚肉、酒類、食品添加物などでも出現します。そのほか、寒さや日光、熱などで発症したり、引っ掻くことでできることもあります。ストレスも誘因になりえます。しかし、実際には蕁麻疹の原因が特定できない例が大部分を占めます。治療は抗アレルギー剤の内服が基本となります。

4 真菌症

● **水虫・たむし（白癬）**

白癬は皮膚糸状菌（白癬菌）という真菌（カビ）の感染によって起こる病気です。足に感染したものは水虫（足白癬）、股に感染したものはインキンタムシ（股白癬）、股以外の体に生じた白癬はゼニタムシ（体白癬）、髪の毛に感染した

ものはシラクモ（頭部白癬）などと呼びます。当院では足白癬、爪白癬、股部白癬…の順に多くみられます。顕微鏡検査で糸状菌を検出して確定診断します。皮膚科受診される前に抗真菌剤を外用されていると糸状菌を検出できず、確定診断ができない場合がありますので、何も塗らずに受診されることをお勧めします。治療は抗真菌剤の外用にて行います。爪白癬では肝機能障害などの副作用に注意して抗真菌剤の内服を考慮します。



5 細菌性疾患

●にきび（尋常性痤瘡）



思春期の男女の顔、胸、背中に好発してみられる毛包脂腺系の慢性炎症性疾患で、軽度のものであれば一種の生理的変化であるといわれるほどしばしばみられます。皮脂の分泌が多く、毛穴が詰まることで面疱（毛穴の出口が硬くなり、中に脂のかすがたまってできるブツブツ）ができます。面疱の中には常在菌でもあるアクネ菌が増殖しやすい状態で炎症を惹起しやすく、アクネ菌の増殖に伴い赤い小丘疹、その後に膿をもち、膿疱へ進展します。さらに炎症が深部へ進行すると、囊肿、結節となり、治癒後に瘢痕を残してしまいます。治療はビタミンB2、B6、Cの内服、抗生剤の内服や外用、アダパレンの外用などを患者様の皮膚症状に合わせて選択します。

●とびひ（伝染性膿痂疹）

湿疹や虫さされや転んでできた傷を引っ掻いて、表皮ブドウ球菌や溶連菌などが原因菌となって広がっていきます。鼻周囲にはさまざまな細菌が常在しており、子どもの鼻いじりの癖があると、鼻周囲からとびひが生じることがあります。とびひになった部分を触れた手で別の部位を引っ掻いたりするとその部位もとびひになってしまいます。抗生剤の内服、外用による治療を行います。

以上、当院皮膚科で多くみられる疾患について解説しました。それ以外でも、夏になると虫刺症や毒蛾皮膚炎などの動物性疾患が急増します。また、角化性皮膚疾患であるタコ（胼胝腫）やウオノメ（鶏眼）はメス刃を用いて削る処置を行っています。自費になりますが男性型脱毛症の治療も行っています。

【結びに】

稿を結ぶにあたり、病院理念に基づいて皮膚科診療に従事できるようにスタッフが一丸となって頑張らせていただきます。今後も皮膚疾患で悩む患者様がより受診しやすくご満足いただける診療が行えるように努めて参りますので、どうぞお気軽に受診してください。また、各科先生方におかれましては、今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



★外来へお車でお越しの皆様へ

外来受診の患者様用に「大栄パーク岩槻本町」（当院契約駐車場）をご利用いただけます。当契約駐車場は無料で（最大3時間まで）ご利用できますので、駐車券と診察券を一緒に病院会計時にご提示ください。

※誠に申し訳ございませんが、お見舞いにお越しの方は、病院立体駐車場をご利用ください。なお、お見舞い時間は午後1時～午後8時となっております。



新任医師紹介

①出身大学・卒業年度 ②診療担当科・役職 ③資格等 ④趣味



室之園 悦雄

(むろのその えつお)

新人のつもりで頑張ります。年寄り扱いしないでください。

- ①東京大学医学部 昭和 52 年卒業
- ②産婦人科部長 ③日本産科婦人科学会産婦人科専門医
- ④読書、スポーツ観戦－相撲と野球（阪神 T.）が特に好きです。



佐野 弘

(さの ひろし)

4月1日、埼玉医科大学病院乳腺腫瘍科より当院外科に着任致しました。岩槻区の地域医療に貢献できるよう頑張りたいと思います。地域の皆様、乳がん検診を受けましょう。宜しくお願い致します。

- ①埼玉医科大学医学部 平成 9 年卒業
- ②外科医員
- ③医学博士（埼玉医科大学大学院 平成 23 年卒業）
マンモグラフィ読影認定医
日本医師会認定産業医
がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了
- ④楽器演奏（ベース、ギター、ドラムス）
野球観戦（埼玉西武ライオンズ）



加藤 琢也

(かとう たくや)

平成 26 年 4 月に着任しました。岩槻の皆様のお役に立てるよう頑張ります。

- ①埼玉医科大学医学部 平成 21 年卒業
- ②外科医員 ④ピアノ、読書

骨を丈夫にしましょう!!



カルシウムは骨の量に関する大事な栄養素です。カルシウムが不足すると骨の中のカルシウムが溶けだし、血液中の濃度を一定に保とうとします。そのため骨の量が減ってしまいます。

体内のカルシウムは、加齢、摂取不足、過度の飲酒、たんぱく質・脂質の摂りすぎなどの影響を受けます。カルシウム不足を防ぐには、カルシウムの摂取量を増やすだけでなく、吸収を助けるビタミンDや、骨の形成を助けるビタミンK、その他ビタミンCやマグネシウムなど、多くの栄養素をバランスよくとることが大切です。適度な運動もカルシウムの吸収に役立ちます。



バランスのいい食事を適量とり、
適度な運動を心がけましょう!



管理栄養士 塚田 晶子

★参考

カルシウムを多く含む食品	牛乳・乳製品、小魚など
ビタミンDを多く含む食品	卵、きのこ、魚介類など



検査だより

糖尿病と検査

現在国内で糖尿病と診断されている方は 950 万人、糖尿病予備軍の方は 1100 万人いるといわれています。
両方合わせると日本人全体の 20% にあたり、今や国民病です。
(2012 年厚生労働省調べ)
近年、糖尿病が認知症を引き起こす要因の一つともいわれています。

★糖尿病の診断には血糖とヘモグロビン A 1 c の検査を行います



血糖検査：血糖値は食事の影響を受けます。
健康診断の場合、空腹時血糖（食後 10 時間以上）を測定します。
正常値：早朝空腹時 70 ~ 109mg/dl



ヘモグロビン A 1 c：過去 1 ~ 2 ヶ月間の平均血糖値を反映します。
正常値：4.6 ~ 6.2%

赤血球中のヘモグロビンにブドウ糖が結合したものです。
赤血球の寿命は 120 日あり、この状態が続きます。



★必要に応じて次のような検査を実施します



尿検査：糖、蛋白、潜血、ケトン体などの有無をみます。



経口ブドウ糖負荷試験：無水ブドウ糖 75 g を水に溶かしたものを飲用して検査します。



グリコアルブミン：過去 2 週間の平均血糖値を反映します。
正常値：11 ~ 16%

血液中のアルブミンという蛋白に
ブドウ糖が結合したものです。



糖尿病は早期に発見し治療することが大切です。健康診断等で血糖値が高い、尿糖が陽性といわれたら医師の診察を受けてください。

高血糖状態が長く続くとさまざまな合併症が併発します。

糖尿病の三大合併症は、糖尿病性神経障害、糖尿病性網膜症、糖尿病性腎症です。

今回は、糖尿病の合併症検査について紹介します。

臨床検査技師 鎌倉 美智子

2014年 7月～12月 丸山記念総合病院 <<休診日カレンダー>>

(平成26年)

- 休診日：毎週水曜日、毎月第一日曜日、祝日 ■赤字は休診日です。
- お盆の時期と年末につきましては、当カレンダーをご参照ください。
- 当院ホームページ <http://www.maruyama-hp.or.jp/>にも掲載しております。

7月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

8月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

9月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

10月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

11月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

12月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			



「看護の心をみんなの心に」をテーマに、5月10日(土)に血圧測定・体脂肪測定・栄養相談・血管年齢測定・介護相談・介護用品展示など、健康に関する催しを行いました。

多くの方に参加いただき「自分の健康状態がよくわかったわ!」などの声が寄せられました。参加者の皆様から、普段食事でごくつけていることや、心がけて行っている運動につ

いてお話をうかがい、生活習慣病の予防について意識が高いと感じました。

今後も七夕コンサート、クリスマスコンサート、市民公開講座などを通じて、地域の皆様と触れ合い、健康に関する情報を提供していきたいと思ひます。皆様の参加をお待ちしています。



広報誌「お元気ですか」第17号 平成26年7月 丸山記念総合病院 広報委員会

◆さいたま市岩槻区本町2-10-5 ◆TEL048-757-3511 ◆FAX048-756-6061 ◆URL <http://www.maruyama-hp.or.jp/>

皆様の健康をお預かりする、地域に愛される丸山記念総合病院であるために職員一丸となって、努力いたします。この広報誌へのご意見、ご感想等をお待ちしております。 広報委員会

医療法人 慈正会

丸山記念総合病院

日本医療機能評価機構認定病院

